

## 1. 2016年度報告

2016年度は下記を学校目標として、学院教育の質の向上を目指す取り組みを進めた。

<学校目標>

- ①Waseda Vision 150 に基づく計画の具体化
- ②SGH(スーパーグローバルハイスクール)指定に伴う構想の着実な実践
- ③日常教育活動全般の充実と改善
- ④中学部と高校の円滑な接続
- ⑤Waseda Vision 150 で改革を進める各学術院との連携強化と教育内容の接続
- ⑥より開かれた学校へ向けての施策
- ⑦キャンパス整備：施設の適切な運用と第3期工事以降の展望
- ⑧災害への備え、生徒教職員の安全確保

<重点項目>

### ○グローバルリーダー育成プログラムの深化と加速化

2016年度学校目標をふまえ、学校のグローバル化のさらなる進展に努めた。SGH校としての研究課題であるドイツにおける移民・難民問題をテーマに、10月には生徒と教員の研究チームをベルリンに派遣した。また、ドイツ(ベルリン)、中国(北京)の学校と協定を締結した。さらに、外部交流機関を活用して、中国・ロシア・フランス・ネパール等にも生徒を派遣し、短期派遣も含めた海外研修派遣生徒数が、前年度比66名増の145名となった。また、SGHとSSHの取り組みを全校で共有するために、学校行事(学芸発表会)で全クラス発表会を実施した。これらの取り組みによって、グローバル社会に生きる生徒の能力涵養に資することができた。2017年度から運用開始される留学を含む3年間卒業を可能とする新制度について、生徒・保護者等への周知と、予想される諸課題に対処する細則の検討を進め、円滑な実施に備えた。

### ○学部教育との効果的な接続

従来の高等学院と学術院との連携に加え、新たな高大接続の形を模索するための検討を開始した。より個々に相応しい進学、円滑な学部への接続、また、進学後の留学を含む諸活動を積極的に支援していくことができるように、大学・学部との協力体制を強化していく試みに関する研究・議論を始めた。

### ○生徒の特性を活かした活動の推進

部活動、生徒会活動、プロジェクト活動のようなグループ活動だけでなく、文部科学省の「トビタテ！留学JAPAN」への積極的応募などを含め、一人ひとりの特性が最大限活かせる活動に参加できるよう広報活動を強化した。各種コンテストへの応募と入賞、留学プログラムへの応募が増加する成果があった。生徒・保護者への系統的な広報・相談活動が重要であり、今後の拡充が求められる。

### ○キャンパス利用の効率化と整備

新体育館棟竣工により教育環境の整備が進むとともに、防災面でも備蓄がより確実におこなわれるようになるなどの進展があった。今後、予想される直下型地震などに備えることと合わせ、AEDや担架、応急対応品の配置などを確認し、一部で改善を実施した。

大学・高等学院全体を通じてより適切にキャンパス利用をしていくため、全学的な観点から関係者と協議し、より効率的な施設利用を図ること、教育環境の充実のみならず防災・減災の観点からも今後第3期工事を展望していくことが課題である。

## 2. 2017年度計画

2017年度は、Waseda Vision 150に基づく学校目標として下記を重点項目として掲げ、学院教育の質の向上を目指す。

### <学校目標>

- ①各学術院との連携強化と高大接続の具体策の充実
- ②留学期間を含む3年卒業制度の円滑な運用開始と留学への適切な支援の充実
- ③主体的にライフ・デザインを構想し進路選択ができる施策の充実
- ④大学での留学やダブルディグリープログラム・国際コースを視野に入れた指導体制・プログラムの研究と開発
- ⑤社会・社会人との連携と協働を進め、より開かれた学校を実現する施策の充実
- ⑥SGH(スーパーグローバルハイスクール)構想の着実な実践と国際交流の充実
- ⑦SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の成果の普遍化と科学教育の充実
- ⑧中学部と高校の円滑な接続
- ⑨生徒の個性・能力・希望を育み伸ばす教育を追求する日常教育活動全般の改善と充実
- ⑩キャンパス整備：施設の適切な運用と第3期工事以降の展望
- ⑪災害への備え、生徒教職員の安全確保

### <重点項目>

#### ○知的探究心に基づき、ライフ・デザインを視野に収めた高・大接続と学部進学

「地球市民」としての豊かな教養を涵養するとともに、高・大接続の真価を発揮しうる方策を講ずる。大学附属高校として、各学術院の学問・研究内容に知的関心をもって進学できるよう、高・大接続の一層の充実をはかる。上級学年における学部設置科目の先取りや研究内容の紹介に加え、高校入学当初から研究・学問の内容に関心を持てるよう、3年間にわたる取り組みに拡充する。さらに、進学学部選択という領域に留まらず、キャリア・プランニングからライフ・デザインまでを視野に収め、生徒各人の日々の学習と諸活動、体験から得た気づきを意識化し、自らの適性や実績に基づいて、将来像を描けるように教育内容を改善し実践する。

#### ○国際交流と留学の充実

協定校(シドニー、ベルリン、サンクトペテルブルク、北京)とCOLIBRI・PASCHなど外部機関を通じた国際交流を充実させるとともに、2017年度より実働する「1年間の留学期間を含む3年卒業制度」を円滑に実施する。SGH活動の一環として、2017年度はオーストラリア研修を実施し、2018年度はイギリス研修を検討する。また、中学部における国際交流の機会の拡充に取り組む。

附属校の立場を活かして大学進学前から留学を志し、大学での留学のための準備を進められるようにするとともに、ダブル・ディグリー取得など高い志を持つ生徒の挑戦をサポートする指導体制とプログラムの研究・開発を推進する。

#### ○生徒の特性を活かした活動の推進と日常教育活動全般の改善と充実

中学部・高校の双方における教科活動、教科外活動の両面で生徒が自主的に学ぼうとする意欲を高める指導を工夫する。生徒の国際交流、部活動、プロジェクト活動などを支援し、困難なこと、新たなものに「挑戦する心」を生徒自らが育ていける機会を増やし、内容の充実を図る。SSH、SGH、情報教育、総合的な学習の時間などの取り組みと成果を共有し、理系・文系の独自性を発揮するとともにその枠を超えた教科融合的な取り組みを模索する。ダイバーシティおよび発達障がいに関する最新の知見を取り入れ、対応できる態勢をとる。個々の教職員が自主的に新しい授業形態を創造し、研究・研修に取り組めるよう環境整備を進める。

以上